

二二七輸送船團二二七可 只等二集團五日、聴取ヲ待ツ  
一九。五浮上 観測通話訓練順行 攻十々整備容易

昭和二〇年六月二日

〇一三三 電探感アリニ。料感ニ目標ハ編隊機ノ如シ 急速潜航  
〇二三五 浮上。四四五潜航 訓練順行筒内整備異状ナシ  
一九〇。浮上。上甲板整備 浮上后コハツキ用鎖ノ際 四号艇ノ  
下部コハツキ 緊締螺筒ニ亀裂アルヲ発見 螺筒ハ軸ト密着トノ  
中間ニ嵌入セラレタレバコハツキニ締メルカ間座ヲ入ル、ノミニテ  
間ニ合フ様子ナリ 明日修理ノ上 浮上前下部コハツキヲ閉鎖シ  
交通筒ニ注水シテ 試験ヲ行フコト決定

# 海軍

昭和二〇年六月三日

日出時潜入 訓練整備順行  
日没時海上前四号艇ノ下部コハツキ 水密試験ヲ行フコト決定ノ所  
電探不良ノ夕又明日ニ延期

昭和二〇年六月四日

〇一三五 電探感アリ不明目標右九〇度一〇料感三九料迄近  
シキタルモ尔后消滅 一スモルラシ  
日出時潜入 訓練整備順行  
日没時海上 浮上前四号艇ハ 塔乗員乗艇 交通筒注水  
下部コハツキ 緊締螺筒ヲ 針金ニテコバンドセル所 結果良  
好 漏水ナシ

昭和二〇年六月五日

日出時潜入 波浪高ク視界不良 初ノ會敵 状況左ノ如シ

〇七四五 音波捕捉 集團音艦感ニ 深サ三五

〇七四七 配置ニ就テ 「回天戦用意」

〇七四九 左三七度感ニ段々近ツク 感度中左右二〇度

〇七五〇 「リズ」ニ五タービン音 推定速力一六節

〇七五一 右四五度

〇七五二 「塔東員乗艇発進用意」 感度稍下ツタ 深サ一八

〇七五四 右五五度

〇七五六 露頂観測 「荒天タナヘ 何も見えナイ」 xセカx

潜入前気壓七四九程 海上朦気アリ視界不良

右八〇度 感度変ラズ

〇八〇〇 深サ三五 微速

# 海軍

〇八〇三 半速

〇八〇六 右一三〇度 感度低下感ニ

〇八〇七 「発進用意 要具收メ」

〇八〇八 右一二五度 音波ノ移動微少

「回天戦用意 要具收メ」

針路一五〇度 波高一乃至一・五米 視界二〇〇乃至三〇〇

艦長ハ右ノ會敵 状況ヨリ 本上ニ向テ 敵機動部隊ト判定

日没時海上ト同時ニ左ノ電波発信

「〇七三〇 集團音 聴知 荒天ノ度 視認し得ズ 推定針路

三五〇度 速力一六節 地真ニ二五ノ〇〇

此ノ発信ニヨリ 敵ヨリノ方位測定ヲ受ケレヒ 左ノ通報アリ

「一九〇ニ 敵ハ伊三六三潜ヲ 地真ニ二五ノ〇ニ方位測定セリ」

敵ハ方位測定ハ 總集情ト上テレド 電波放射時 比較的短ク

其可成發信技巧ヲ疑ハシ揚句ナレバ測定誤差五〇哩ノ出末榮  
ハ天晴ト觀見ス 尚右ノ電報ニ基キ下FBハ左ノ情報ヲ發セシ  
7.0.7.3.0.伊三六港ハ沖鳥島ノ北方約一〇〇哩ニ於テ集團音ヲ  
聽知セルモ荒天ハ爲現認シ得ズ 推定針路三五〇度速力一六  
節即明六日敵機動部隊ノ九廿方面來襲ノ旨昇アリ

文中「伊三六」ハモトヨリ「伊三六三」誤ナリ  
一九五〇飛行機右一〇度六五料感三一度消滅シテ又現ル感ニ

昭和二〇年六月六日  
和田少尉腹具合悪ク食欲ナシ。下士直塔乗員ハ極メテ元氣

小菅ニカ員ナシナリナリ

三号艇筒内浸水稍々大五立程度 調壓用「ロッド」貫通部ノ  
毛糸衛帶所ニ切レテハミ出セリ 本綿衛帶ニテ補修

### 海軍

日没時海上飛行機探知船三二料感五 二七料迄接近急淺  
二〇〇。海上

昭和二〇年六月七日

〇四二五飛行機右一四〇度四〇料感四 三九料迄近ツキ以右遠能心  
執力 遠入直台訓練中四号艇人力縦舵面舵一杯トナル辰サン  
トセシ所ニ〇度ニテ旋回不能トナル 日没時海上ノ際「ロッド」  
機置ヲ確ムルヲ定

晝食台彈着音ヲレキモノ右一〇〇度感二 更ニ三日源ラレキモノ  
感一〇

一三二五 同天戰用音ニ立日源ハ「ライ」セシ 感一度巾右右三度  
暫クヒテ音源消滅

一三三六 同天戰用音ニ立日源ハ「ライ」セシ